

生産者等の主な意見まとめ ①		参考2
	女性未来サポーター	青年農業者連絡会
目標	・大事なのは、担い手と農の教育 ・10年後も安心して農業ができる ・農業に携わって理解してほしい	・農業の大変さを理解してほしい
担い手	・新規就農への支援はあるが、小規模農家（家族経営）への支援が必要 ・農業次世代人材投資事業では、親元就農は新たな土地で親と別の農作物でないと支援しない ・新規就農者であれ、親元就農であれ、担い手を守っていくために何らかの支援が必要 ・新規就農者への支援は5年補助金が出るが、生活費に活用し、補助終了後、生活できず離農する人もいる ・自分で農業ができなくなれば、市民農園を開設することも考えられる ・農業は毎年が1年生。毎年、気候も違い、試行錯誤して農業を営む。新規就農は特に技術もなく継続が難しい ・新規就農への支援は10年くらいの単位で必要では	・農業で働きたいという人はいるが、働き場所となる農地の位置など条件によりマッチングがうまくいかない事例もある ・農協などでパート募集がされている。シルバー人材センターなどは仲介料が高いため、なかなか活用しづらい
農への理解	・食育の取り組みをしているが、農業そのものの理解されていない ・小学校で田植え等をしているが、イベント的な田植えや刈り取り等では断片的なものしか見えない ・イベント的なものは、農家が完璧に準備しないとできないので、本当に大変な部分は見えない ・市で、食育を行う学年などを決めて取り組むべき ・都市部で生活する子は、季節を感じられないと思う ・ハウス野菜が年中食べられることや、輸入品など食べて育っているため、農業・農村の大切さを知らないと思う ・施策体系（案）の「農と都市との共生」にもっと力を入れてほしい ・農への理解ができていると、食べ物に関心を持てないと考えている。農業そのものに対する教育が大事 ・食育に携わっているが、なにか取り組みをやろうとしたら、教育委員会のハードルが高いと思う ・作業が危ない、先生への負担が大きいという理由で、食育体験が農業の真似事のようにになっているのではないか ・農業と観光が手を組むのも良いのではないか ・荒れた土地や森林を使ってトレイルラン等をしたら農村のことも理解されると思う	・現場では大変な思いをして、農作物を作っていることをわかってほしい
農業政策	・県・市・JAの連携が大事 ・若手農家のサポートが必要。若手からこれからの農業施策について意見を聞いてほしい ・農業で儲けることはできない ・市や県・国などが行っている補助制度など、情報提供を行ってほしい ・実績やモデルづくりのみで、その後が続かない事業が多いのではないか ・今後も継続していくため、生産者だけでできるようになるまで行政が支援する必要があると思う	・収入の安定化が必要。需要で左右されるため、出荷するだけ赤字となることもある ・生産安定事業の新たな施策として、品目毎に価格が低い時期の損失を補填するメニュー等が用意され、選択できたら良い
農地	・農業継続が困難な土地は、周辺の農業者に引き継いだり、農協に委託したりしている。 ・ほ場整備されていない農地は、そもそも引き取り手がいない ・周辺で農業を行っている人に引き継ぐのにも限界がある。担い手には限りがある	・農地の管理において、年々資材代が高くなっている（約10%値上がり）。農作物価格と比べるとやはり赤字になる ・資材代が高くなった時、農作物の価格が上げられず、経費だけが増額となる。その分すべて生産者に負担がくる ・行政からの情報提供が少なく、補助や支援などの知らない情報があるかもしれない。情報提供をお願いしたい。
農村	・知らない就農者が増えてきた。交わりがあまりないので、不満が出ることもある	
SDG s	・資料にSDG s が盛り込まれている。世界的にやっているものだから、しっかり取り組む必要がある	
都市農業	・住宅地の真ん中での農業は、周りの住民に気をを使う。たい肥はできるだけ臭いがないものを購入し使用 ・住宅地の真ん中では臭いも気になるため、特別なたい肥の購入に補助があるといい ・採れたての新鮮野菜を中洲などのホテルのランチで出せるのは、都市部で農業をやっていることのメリット ・ポケットマルシェ（EC連携）は良い取り組み。生産者がホテルやレストランに直接配達するのは時間も要し大変 ・都市部の農業では、固定資産税の支払い分相当の野菜を作って売るのは大変。都市農業ならではの補助金があれば	
その他	・アメリカでは学校の横に農地がある。アメリカにならって農業の大切さを学ぶ機会を日本も作る必要がある ・少量多品目は売れない。1つ1つの野菜のクオリティを上げるしかない ・山林で筍を春に収穫し、その水煮を真空パックすることで年中売れる。筍ご飯の素など作成販売するのも良いのでは（毎年、筍を収穫し、人が山林を管理することで、山林は荒廃せず人は筍で儲かる。儲かる農業の推進も大事） ・未利用野菜をペーストにし商品化した記事を読んだ。福岡でもトマトなど未利用野菜が破棄される。活用できないか ・生産者が加工品に力を入れすぎると、生産に力が入らない。結果、生産者が販売など他の業態に変わった例もある	・農林水産まつりでは「市内産の牛」として販売のPRができるが、野菜や花などと異なり、他のイベント参加は難しい ・畜産について、農林水産まつり以外でも、消費してもらえるようなイベントをやってほしい ・福岡市で生産されている農作物のPRをしてほしい ・農作物の品目ごとにTVなどで紹介してほしい。野菜などの需要増のため、行政の力でできないか（例：季節ごとに、農作物の旬など、市で情報を整理して紹介を行う など） ・人件費だけ上がって、農作物の売れる値段は低い

生産者等の主な意見まとめ ②		
	農業委員会 農業委員	農業委員会 前会長
目標	・<u>担い手への支援をし、担い手を守っていくことが大事</u>	・<u>世代交代で次に引き継ぐ</u>こと（今までは家族農業だからできた） ・国土の保全、農地の保全 ・<u>魅力ある農業を伝えていかなければ</u>ならない
担い手	・<u>後継者不足</u>。農産物の単価や所得など、他産業に比べると単価が低い。所得の保証がないと後継できない。所得が見えて農家が頑張れば、これだけ生活ができるというのが見える施策が必要 ・担い手の確保育成への支援はあるが、担い手自身や認定農業者への支援が少ない ・<u>担い手を増やしていくことが大事</u> ・65歳～70歳で就農する人もいる。その年代にも農業に目を向けてもらえる施策をしてほしい ・<u>家族農業に意欲的な人が多い</u>と思う	・市街化区域農地の固定資産税が収入の約3分の1を占める。農地を次の世代に繋いでいけるか心配 ・大きな農家や法人でないと人を雇うことはできない
農への理解		・ものを育てることを教えることが大事。教育委員会との連携が必要 ・小学校の役員をした際に、3～4年生の児童を農地に招待し、春菊を収穫した。親からの反響も大きかった ・若者に農の理解をしてもらわないと。農は3Kのイメージが強い
農業政策	・世間ではスマート農業と言うが、福岡市ではまだそのレベルまで達してないのではと思う。 ・高齢者がコロナで買い物に行けない状況。農産物をワンコインで購入できる自動販売機があるので導入を検討しては ・資料「持続できる強い農業の推進」の「農地の保全問生産基盤の整備」が重要。農業予算を確保してほしい ・<u>市内産農産物の消費について、学校給食での役割は大きく、一定の効果が上がってきている</u>と思う ・企業の給食事業は学校給食と比べると規模が小さい。企業の給食事業においても活用を検討いただきたい	・「人・農地プラン」の実質化が重要。農政でしっかりサポートする必要がある ・集落ごとに十分に話し合いをしなければならない（特に中山間地域） ・国は規制緩和や自由化を行い、農産物が外国から入るため、国内産の農産物は外国産と競争することになる
農地	・効率の良い土地では耕作するが、効率の悪い土地では作らない。耕作放棄地が増えている。 ・都市部で農業をしているが、市街化区域内であるため、市街化調整区域のような農地の利用権設定ができない	・<u>農地が減少し耕作放棄地が増加</u>している。 ・農業委員会会長だった時、再生困難な農地を非農地判断したら農地面積がかなり減少した。農地の保全は難しい ・中間管理機構が農地バンクを行うが、貸し手と借り手が決まっていないと中間管理機構は引き受けないのは意味不明 ・中間管理機構は貸し手が申し出た時点で農地を引き受け、借り手を探さないと、農地の管理がなされず農地が荒廃する ・規模拡大を行った農家が農業をリタイアする時、農地の維持は大変。現状の把握と見直しをしないといけない ・<u>5年後、10年後に農地が荒れないよう担い手を確保することが大事</u> ・市街地の固定資産税は宅地並評価であり高額。生産緑地制度は後継者を示せば高齢でも活用の可能性があると知った ・<u>外国では、農地も国土としてしっかり守ることを教育され、農業に理解がある</u>
農村		・鳥獣被害から農村を守らなければならない
SDGs	・SDGsが取り入れられているが、先日「みどりの食料システム戦略」が国から示された。この戦略が2050年を目標としていることから、<u>30年先の農業の目標もあわせて検討してほしい</u>	
都市農業		
その他	・トラクター運転の大型特殊免許の取得について、事故が多いということもあって、警察からの取り締まりが厳しくなった。生産者も高齢化しているため、新たに免許を取得することが大変になった。	